

幼保一元化の推進…「乳幼児の育ち」に関わる成果と課題…

幼保園名 (掛川中央幼保園)

平成26年度 教育目標『みんなでつなく たのしいようぼえん=明るい子・がんばる子・かんがえる子』

保育のねらい

0歳児	1歳児	2歳児
<ul style="list-style-type: none"> ・ 欲求を満たし、安全で健康に過ごす。 ・ 保育者と信頼関係を築き情緒の安定を図る。 ・ 発達に合わせて、離乳の完成、歩行の開始を目指し、感情や発語を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境や保育者に慣れ、安心して過ごす。 ・ 簡単な身の回りの始末の仕方を知る。 ・ 戸外や室内で、保育者や友だちと遊びながら、簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者と安心して過ごしながら、自分の身の回りのことを自分でしようとする。 ・ 喜んで身体を動かして遊ぶ。 ・ ごっこ遊びや見立て遊びを通して、保育者や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知る。

成果と今後の課題

	0歳児保育	1歳児保育	2歳児保育
(保育のねらい) 子ども(の)姿・育ち	<ul style="list-style-type: none"> ○ 玩具でひとり遊びを行うようになった。また、保育者との関わりを喜び、仲立ちにより友だちへの関心も表れたりしている。 ○ 戸外へたくさん出るようにした事で楽しみながら身体を動かして遊ぶ姿が見られるようになった。 ○ 聞く、見る、触れる等の経験を通して、好奇心が芽生え、手先を使う姿が見られるようになった。 ○ 食事では、手づかみやスプーン・フォーク等で食べようとする姿が見られる。 ○ 指差しや仕草、簡単な言葉で自分の思いを保育者に伝えようとする姿が見られる。 ● 這う、つかまり立ち、つたい歩き等の発達に合った運動遊びの設定をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの要求に応じる事で、保育者に慣れ、安心して過ごす姿が見られた。 ○ 集団生活の中で、衣服の着脱、食事、排泄などの基礎が身に付き、自分でやってみようとする姿につながってきている。 ● 生活面では個人差が見られるため、一人ひとりに合った声掛けや見届けが必要である。 ○ 保育者に自分の思いを受け止めてもらい喜びを感じ、また、周りに刺激され言葉数が増えていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当初は身の回りの始末に個人差が見られたが、プールの着替えをきっかけに自分でやろうとする気持ちが育ち、自分でできるようになってきた。 ● まだ個人差が見られるため、声かけが必要な子もいる。 ○ 身体を動かす事が好きで喜んで遊ぶ姿が見られた。身体の使い方が不器用な子が数名見られたが、繰り返し経験することで、少しずつ身体を動かして遊ぶようになってきている。 ○ 友だちと一緒に活動する楽しさがわかり、誘いかけると喜んで遊ぶ姿が見られた。 ● 言葉のやりとりがうまくできない為、トラブルになることがあった。言葉のやりとりの仕方を教えながら、一人ひとりの思いをその都度しっかり受け止めていく必要がある。
環境構成・援助	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭と連携を取りながら無理がないよう園生活を送れるようにした。 ○ 生理的な欲求を十分に満たし、健康や体調、機嫌の状態を見ながら、生活リズムを整えていった。 ○ 一人ひとりの発達や思いに合わせて、育ちを助長する働きかけを行った。 ○ 保育者との丁寧な関わりにより、安心して生活し、遊べるようにした。また、他の子との関わりも持ち、興味が広がるように促した。 ● 興味や発達に合わせた遊びの設定を行っていきたい。 ● 友だちとの関わりの中で、トラブルがあった時にはその都度、お互いの気持ちを受けとめていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちが見通しをもちやすい生活リズムを確立できるようにしていった。 ● 予測できない事故や怪我があるので、常に職員間で連携をとりながら、全体に目を配る必要があると感じた。 ○ 子どもの発達に合わせて、体操や運動遊び(かけっこ・階段のぼり、マット運動など)を取り入れていくことで、体力がついてきた。 ○ 子どもたちの好きな絵本や紙芝居を繰り返し読み聞かせすることで、言葉の獲得に繋がっていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気持ちを受け止め、安心して過ごせるよう配慮すると共に、楽しく遊べる様環境を整えたり、手作り玩具を作ったりした。 ○ 子どもが自分でやりやすい環境設定をしたり、できたら褒めたり頑張ったことを認めたりすることで、自分でもやってみようという気持ちが持てるようにした。 ● 常に時間にゆとりを持ち、子どもが自分でできるよう見守ったり、個々に合った援助ができたりすると良い。 ○ 玩具の取り合いでトラブルになる事があったが、思いを言葉で伝える事や、玩具の貸し借りの仕方を伝えていく事で、トラブルは少なくなった。
幼保交流に対する配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園内を散歩することで、他クラスの保育者や年上の子どもたちと触れ合えるよう意識した。 ○ 集会や園行事にできるだけ参加するようにした。 ● 生活の時間帯が違い、直接的に交流を持つことが難しいように感じる。 ● 朝の体操を見るなど、もう少し交流を持てる機会を作れば良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 散歩カーや誘導ロープで回廊を散歩したり、クラスに異年齢の子が来てくれたりしたことで、自然と関わりを持つことができた。 ● 早番・遅番での関わりが多い為、比較的保育園部の子とは交流がもてたが、幼稚園部の子とはあまり関わる機会がなかった為、もう少し多く交流することができると良かった。 ○ 各行事へ無理なく参加したことで、他クラスとも関わる機会がもてた。 ● 活動時間の違いなどから、幼稚園部との関わりの方があまりなく、交流が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の体操を一緒に行うことで、他学年の子が声をかけてくれたり、保育室に来てくれたりして、楽しんで遊ぶ姿が見られた。 ○ 発表会や集会では、全学年で参加することで、いろいろな学年に興味を持ち、交流に繋がった。 ● 活動内容や時間の違いから、他学年と交流を持てる機会が少ない為、月の計画を通して他学年とも交流を持てるようにしていけると良い。

幼保一元化の推進…「乳幼児の育ち」に関わる成果と課題…

幼保園名 (掛川中央幼保園)

平成26年度 教育目標『みんなでつなぐ たのしいようぼえん＝明るい子・がんばる子・かんがえる子』

保育のねらい

3歳児	4歳児	5歳児
<ul style="list-style-type: none"> 喜んで登園し、保育者や友だちと親しむ。 基本的な生活習慣を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな遊びや活動に興味・関心を持ち、友だちと一緒に楽しく遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活をすすめる中で、友だちと協力し合いながら、自分の力を十分に発揮する。

成果と今後の課題

成果○ 課題●

	3歳児保育	4歳児保育	5歳児保育
ナユムの姿・育ち (保育のねらいの達成)	<ul style="list-style-type: none"> 泣いて登園をしぶる子もいたが、少しずつ園生活に慣れ、喜んで登園するようになった。 日々の経験を通して生活の流れが身に付いてきており、所持品の始末や自分の事は自分でやろうとする姿が見られるようになってきている。 ● 基本的な生活習慣が身に付いてきている子が多いが、中には声掛けや援助を必要とする子もいる。 ● 少しずつ気の合う友だちを見つけて関わりが持てるようになってきているが、自分の思いを言葉でうまく伝えられず、トラブルになる事もある。また、中にはまだ一人遊びの子もいる為、引き続き援助を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身支度等、自分の事ができるようになると、余裕がもてるようになり周りの友だちの存在に気付き、助け合い活動ができるようになってきている。 ○ 気の合う友だちを誘って好きな遊びを楽しんでいる。 ● 友だちと関わる中で、自分の思いを伝えられるようになってきたが、まだ思うように相手の思いを聞き入れる事が難しい。 ○ 園行事や運動遊びを通して、自分なりに目標を持って取り組めるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼保区別なく活動を取り組んでいるが特に運動会や発表会がきっかけとなり、さらに幼・保の子どもたちの交流が深まり戸外遊び(ドッジボール・こま)等で自然に関われるようになった。 ● 自分の得意とする事はすすんで行いが苦手意識がある事やできない事に対してはあきらめてしまう姿が見られた。 ○ お互いを認め合ったり、励まし合ったりして相手を思いやる優しい心が育っている。
環境構成・援助	<ul style="list-style-type: none"> ○ 好きな遊びが見つけれられる様、設定をしたり、発達に合わせルールのある遊びやごっこ遊びも行った。 ○ 年間計画の中で、運動遊びを多く取り入れたり、固定遊具に取り組める様活動をすすめてきた事で、個々の育ちにつながった。 ○ 生活習慣が身に付くよう、チームの先生と連携を取り、丁寧に指導をしたり、見守ったりする事ができた。 ● コーナー設定を取り入れたが、季節ならではの遊びも、もっと取り入れると良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 季節や行事、また子どもの遊びの様子に合わせて環境を整える事で子どもたちの力で遊びを展開しようとする姿が見られた。 ○ 一日の流れを伝える事で、見通しをもち活動ができるように配慮した。 ● 遊びの環境構成の工夫や投げかけ方等、遊び道具をうまく活用できなかった。 ● 遊びがマンネリ化してしまったので、子どもと一緒に遊びに必要な物を作ったり、自由に取り出せるコーナーを設定するなど援助が必要だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ おみせやさんごっこで作る楽しさを経験したことがきっかけとなり、遊び道具を友だちと一緒に作って遊ぶ楽しさを味わえた。 ○ チャレンジカード(鉄棒・うんてい・縄跳び)を導入した事で、自分の目標を持ち、積極的に取り組む姿が見られた。 ● 戸外でのコーナー設定遊びが少なかった。 ○ コマまわしをする場所を園庭に設けて、みんなが見たり挑戦できる様にした。
幼保交流に対する配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園外保育や散歩に出かけたり、テーマ選択を取り入れ、他クラスの友だちや保育者と親しみが持てるようにした。 ○ わくわく発表会では、クラスを解体して他クラスの保育者や友だちと活動したことで顔や名前を覚えたり、関わりを持てるようになってきている。 ● 乳児との交流の場がなかなか持ちにくい為、そういった機会を作りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 段階を追って保育者が意図的な関わり場を多く持つ事で、幼稚園部と保育園部のつながりが深まった。 ○ 運動会・日々の体操やジョギング・発表会を通して、幼保一緒に取り組んだ事で保育者自身が他クラスの様子を把握できたり、子どもたちもいろいろな友だちの存在に気付くことができた。 ● 職員同士の話し合いの際、全員揃って進めることは難しかったが連絡・相談を心がけ、少ない時間を有効に活用してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 短時間ではあるが、朝の体操を一緒にしたり、マラソンをする時間等を継続的にとったりするように心がけた。 ○ 日頃から保育者間で声をかけ合い、一緒に活動ができる様に心がけた。 ● 保育時間の違いがあるが、時間の短い幼稚園部に合わせる事が多くなってしまった。

幼保一元化の推進…「乳幼児の育ち」に関わる成果と課題…

幼保園名 (掛川中央幼保園)

平成26年度 教育目標『みんなでつなぐ たのしいようほえん=明るい子・がんばる子・かんがえる子』

成果○ 課題●

園内研修	同一カリキュラム、幼保交流
<ul style="list-style-type: none"> ○ 打ち合わせノートにより全職員に連絡等を伝えた。 ○ 特別支援教育や援助が必要な子の発達や対応について、保育者全体が統一をはかった。 ○ 園全体の研究テーマを決め、意識をもって保育にあたるようにした。今年度は、戸外遊びの内容も検討し、遊びや用具について再検討し、取り組んだ。 ○ 全体で音楽研修をすることで、保育に生かせるうた・手遊びが統一でき確認することができた。 ● 全職員が研修の情報を共有できる時間を持ちたい。 ○ 学期ごと又は各行事ごと反省を行い、課題を明確にし、対策を検討することで保育が深められるようにした。 ● 研修では発言する職員が決まってしまうがちなので、全員が積極的に発言できるとよい。 ● 新人研修では、研修により、保育の実践へとつながるように進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同一カリキュラムにすることで、同じ視点での共通理解や課題を持ち、幼保一元化の意識が持てた。 ○ 各クラスでの環境に慣れることを大切に、徐々に他クラス、他学年の交流をもてるようにした。 ● 保育時間の違いや発達の違いなどから、同一カリキュラムを進めていく上では保育時間の工夫や内容の検討が必要。 ○ 朝や帰りの打ち合わせの時間を有効利用し、日々の保育の出来事等を報告・検討し、共通理解をした。 ● 学年間での打ち合わせや準備の時間が充分取れない。 ● 交流はしているが、子ども同士の自然のつながりがなかなか生まれにくい。意識して関わりがもてたりするような活動を取り入れていく。 ○ 行事ごとに、幼保一緒に話し合い決めていったことで、共通理解ができた。 ○ 発表会では、クラス解体をし、小グループを作って活動したことで、他のクラスの子や保育者との関わりを持つことができ、交流が深まった。 ○ 乳児が幼児の活動を見ることで真似をしようとしたり、幼児が乳児の活動を見ることで応援したりと、幼児と乳児の関わりをもつことができた。
家庭（保護者）との関わり	園行事の持ち方
<ul style="list-style-type: none"> ○ 連絡帳を有効的に活用することで、保護者との連絡を密にできた。 ○ 送迎時に直接話をしたり、ホワイトボードに一日の様子を書いたりして理解を得た。 ○ コミュニケーションBOXを設置して、対応した。 ● 保護者の安心感や信頼感が高まるように接していく。 ○ 保護者の協力を得る行事についてはアンケートを配布し、意見を求めた。 ○ 個人面談で保護者との話し合いの時間を設け、子どもの成長や課題を確認し合い、理解を深めた。 ● 幼保双方の保育者が幼保の保護者と面識がもてるようにしていく。 ○ 夏祭り会・運動会・もちつき会・クリスマス会などの行事において、保護者会が協力的である。 ○ 幼稚園部と保育園部の保護者とは協力できる時間帯や考え方が違う点があり、工夫して進められるようにした。 ● 引き続き保護者の意見を聞きながらも、園の方針を理解してもらえるよう伝えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者が見られる保育解放の機会を増やした。 ○ 3歳児、4歳児、5歳児が集まって行う行事は、内容や時間を検討し、無理のないように行った。 ○ 乳児の行事への参加は発達に合わせ内容や時間を検討して行った。また3学期になると、乳児も長い時間行事に参加できるようになってきている。 ○ 担当者を決め打ち合わせを行い記録や反省をしながら取り組んだ。反省は次へ生かせるようにしている。 ● 幼保の家庭環境の違いをどのように汲み取り、何を大切にすべきかを考えていく必要がある。 ○ 幼保が行事を一緒に行う事で、お互いの交流を持ち、一緒に楽しむ事ができた。 ○ 行事等の準備は幼稚園部の保育者が行ったり、保育園部の午睡時間を使ったりすることで効率よく進めた。 ● 乳児と幼児の関わりがもてるような取り組みが必要である。 ○ おもちつき会やお茶会（年長児）など日本の伝統文化を体験できる行事を取り入れ、良い経験になった。